

信州大学サポーターズクラブメルマガ第 106 号 2022 年 05 月 31 日

信州大学サポーターズクラブ

メ | ー | ル | マ | ガ | ジ | ン | 第 106 号 |

信州大学サポーターズクラブ事務局

2022 年 05 月 31 日

..... 毎月月末に配信しています

【 I N D E X 】

シンダイ百科

信大からのお知らせ

登録団体からのお知らせ

信州再発見

□■シンダイ百科

「信州大学吹奏楽団」
をご紹介します！

信州大学吹奏楽団は今年で創立 38 年目になります。
所属人数が 100 名を超える楽団で、コンサートやコン
クール、定期演奏会など精力的に活動しています。今
回は教育学部学生の中村さんにお話を伺いました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

□■信大からのお知らせ

県の森フェスティバルが開催されます！！

信州大学 1 年生が企画・実行する県の森フェスティ
バルが 3 年ぶりに開催されます。

開催日時：6/12（日）10 時開始

開催場所：あがたの森公園芝生広場
2022 年スローガン：あつまれ！あがたの森

今年のスローガンには学生たちの多くの人が集まり
楽しい時間を過ごしてほしいという想いが込められ
ています。



信州大学自然科学館 定期開館のお知らせ



信州大学松本キャンパス内にある自然科学館が、
6 月から週 2 日間、定期開館しています。

開館日：6 月から 10 月の毎週火曜日と土曜日
開館時間：10 時から 16 時まで

上記以外で来館を希望される方も、自然科学館 HP
に掲載されている連絡先（理学部総務グループ）へ事
前にお電話いただければ見学が可能です。

また都合により休館になる場合があります。事前に
ホームページでご確認ください。

○詳細はこちらから

・信州大学自然科学館ホームページ

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/museum/>

・過去の関連メルマガ記事

（第 102 号：2022 年 1 月 31 日配信）

□■登録団体からのお知らせ

信州メディビトネット様より

『信州健康かるた』プロジェクトについて



私たちは「長野県に健康を広める」を理念に活動す
る医療者団体です。医師、看護師、薬剤師、子育て団
体の方などが在籍し、健康講座やイベントの開催、HP
での情報発信などに取り組んでおり、近年は特に“子
ども世代への取り組み”に注力しています。

大人が長年の生活習慣や考え方を变えるのは、簡単
ではありません。「幼少期に楽しみながら、正しい健
康基礎知識と生活習慣を身につけてほしい」という願
いから、2019 年に医療者と市民 1000 人で「信州健康か

当団体やプロジェクトに参加、応援して下さる方は、お気軽にご連絡ください。

信州メディビトネット <https://main.medibito.net/>

安曇野市 大王わさび農場

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

メルマガのバックナンバーはこちらから
<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/mail/>

『信州大学サポーターズクラブメールマガジン』
編集・発行/信州大学サポーターズクラブ事務局
長野県松本市旭 3-1-1

【 Mail 】 koyukai@shinshu-u.ac.jp

【HP】 <http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>

【 F B 】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2022.05.31



信州大学サポーターズクラブ【シンダイ百科】第106号

—今回は、信州大学吹奏楽団の中村さんにお話を伺いました。



Q1) 信州大学吹奏楽団はどんな団体ですか？

A)

吹奏楽団の設立は1985年4月1日です。現在所属する学生の学部は全学部にわたり、学年は学部1年生から修士2年生まで、団員数は100名を超える大所帯となっております。私たち信州大学吹奏楽団は、夏から行われる朝日新聞主催の吹奏楽コンクールにて、全国大会出場を目標にしております。また、大会がすべてではなく、団員が楽しく活動できるよう個人の状況や意見を尊重し団活動を行っています。

Q2) 主な活動内容を教えてください。

A)

5月にあまやどりコンサート、11月、12月に定期演奏会を行っています。銀嶺祭や各キャンパスの学園祭での演奏に向けて、毎年抽選に参加していますが、ここ数年は落選が続き演奏できていません。

また、夏合宿・春合宿・スキー合宿などの楽しい行事や中部地方の他大学との交流、松本市内の中学校との合同演奏会を行っていましたが、最近ではそういった交流もほとんど行えずにおります。一刻も早くコロナ禍の状況が収まり、合宿などの活動を再開できればと思います。

日々の練習は、毎週末に松本の公民館や大学キャンパスにて全学部が集まり練習を行っています。楽器の運搬、練習予定、練習場所の確保などを学生が中心となっており、活動がスムーズに進められるよう練習に向けて計画を立てております。また、平日は松本支部、長野支部、上田支部、伊那支部の各支部で個人・パート練習を行います。

Q3) 団員が多いことで、良いところ、困ってしまうところはあるですか？

A)

(良いと思う点)

大所帯であることで、今まで挑戦できなかった曲を吹くことができたり、幅広い交友関係を築き上げられたりすることが良いと思う点です。吹奏楽に対する思いが様々であるため、とても良い刺激になります。

(困ってしまう点)

信州大学はたこ足キャンパスということもあり、毎週松本キャンパス以外の学生が朝早く集まって練習するのは体力的にも精神的にも大きな負担になっています。また、車を所有している団員が少ないため、移動費の負担が大きくなっている点が困っています。



Q 4) 100 名を超える団員がいるとなると、各楽器の演奏者の層が厚く、どんな曲でも演奏できそうですが、代表曲はあるのでしょうか？

A)

『信州大学吹奏楽団といえばこの曲！』といったものはございません。毎年その代によって特色が大きく異なるため、演奏する曲も変わります。十八番というものはありませんが、毎回の演奏会で様々な顔をする信州大学吹奏楽団を聞くことが出来ます。

Q 5) 団員が団結するために大切にしていることを教えてください。

A)

「迅速な情報共有を行うこと」、「学年の垣根を越えること」、「メリハリをつける」の3つです。団員が多いため、活動に支障をきたさないよう情報共有に関しては細心の注意を払っております。また、練習を行うにあたり学年の垣根を越えて意見を言える環境を整えることで効率化を図ることができると考えております。また、様々な意見が飛び交うことによってより団として成長していくと思うからです。しかし、学年の垣根を越えるということは、楽しく活動するだけでは団としては成り立ちません。練習するべき時間はしっかりと音楽に向き合う時間、活動以外の時間は楽しく交流する時間とメリハリを持った団活動を心掛けています。

Q 6) 吹奏楽ではどんな大会が開催されて、どんな内容で技術が競われるのか教えてください。

A)

吹奏楽では朝日新聞主催の吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテストのほかにマーチングコンテストがあります。当団はその中の吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテストに出場しています。しかし、そのまま全国大会に行けるわけではなく、支部大会を勝ち上がっていく必要があります。長野県の場合は、長野県大会、東海大会とコマを進めなくてはなりません。朝日新聞社主催のほかに音楽大学が主催するソロコンテストや合奏コンテストなど形態は様々です。審査観点として主に挙げられるのは、「技術があるか」、「音楽性をもって演奏されているか」、「魅力的な音であるか」です。上位大会まで行くと、音程や技術はしっかりできている前提で各団体の音楽性で競われます。

過去の実績としては、2021 年度夏のコンクールでは東海大会銀賞、アンサンブルコンテストでは打楽器 7 重奏が東海大会金賞、トロンボーン 4 重奏が東海大会銀賞を受賞しました。信州大学吹奏楽団は過去 5 年間、夏のコンクールでは毎年東海大会に出場しております。2012 年度の大会では全国大会に出場いたしました。

Q 7) 2021 年度は打楽器 7 重奏、トロンボーン 4 重奏がそれぞれ受賞されたとのことでした。同じ楽器での重奏とはどのような演奏ですか？また、重奏では何に注目すると楽しめますか？

A)

重奏はその編成が何人で演奏されるかということを表します。同じ楽器で演奏することは曲の作りによってよくあります。そのような演奏の場合、同じ楽器だからこその普段聞くことのないサウンドに注目してみてください。同じ楽器のみで演奏するように曲が構成されているため、よりその楽器の魅力に気付くことができると思います。



Q 8) 大会や定期演奏会で演奏する曲はどのようにして決めていますか？

A)

大会や定期演奏会で演奏する曲については、曲の決め方がそれぞれ異なりますので分けてご説明いたします。東海大会では学生が曲の候補をいくつかあげ、バンドディレクターと相談して決めます。定期演奏会では、毎年演奏会のテーマを決め、そのテーマに沿った曲を学生から募集します。募集した曲の中から演奏会企画係が中心となり、実際に演奏する曲を決めます。

Q 9) 今年も全国大会出場を目標としているとのことですが、目標達成のために力を入れていることがありましたら教えてください。

A)

全国大会に出場するために、「自分たちにしかできない唯一無二の音楽をする」ことを目標としています。そのために行っていることとして、普段の練習から自分たちのサウンドに真摯に向き合うことに力を入れています。団員一人ひとり技術はあります。しかし、団員全員となると音の方向性がばらついてしまうなど、まとまりがなく、魅力的な音からほど遠い位置です。全国で誇れる音とは何か、自分たちにしかできない音とは何か、を常に追求しながら活動を行っています。



Q 10) 今後の活動で力を入れていきたいものがありましたら教えてください。

A)

入団者をお待ちしています。コロナ禍の状況が収まれば新歓コンパ、追い出しコンパ等先輩と後輩との交流もあります。また、合宿も毎年行っております。早くコロナ禍の状況が収まってほしいです…。

Q 11) メルマガ読者へメッセージやコメントがあればお願いします。

A)

定期演奏会などの開催予定を公式 Twitter・Instagram でお知らせしています。ぜひ、信州大学吹奏楽団のフレッシュなサウンドを聞きに足を運んでくださると幸いです。

【信州大学吹奏楽団 Twitter】

<https://twitter.com/shindaisuisou>

【信州大学吹奏楽団 Instagram】

https://instagram.com/shindai_suisou/

吹奏楽団さんが100名を超える団員がいるということにとっても驚きましたが、それにより豊かで厚みのある演奏がお客様を楽しませていると思うと、同じ信州大学の一員としてとても誇らしくなりました。これからも活動頑張ってください。応援しています。この度はインタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

信州大学サポーターズクラブ【信州再発見】第106号

安曇野市にある大王わさび農場に行ってきました。流れているのは蓼川（たでがわ）で写真には写っていませんがもう少し下流で万水川（よろずいがわ）と合流します。安曇野といえばこの景色を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか？



農場は全部で5つの畑から成っていて、下は大王畑（だいおうばたけ）を写した写真です。訪れたのは5月7日で鯉のぼりがのんびり泳いでいました。



畑を覆っている黒いものは寒冷紗（かんれいしゃ）というもので、ワサビは半日陰で育つ植物のため、畑の側には日陰になるようにアカシアや柳などがたくさん植えられたそうですが、それでも遮（さえぎ）るのが難しい日差しからワサビを守っているそうです。

こちらはもっとも手前にある北畑（きたばたけ）を写した写真です。こちらは2割ほどが寒冷紗に覆われていましたが、まだ覆われていない部分で元気に育つワサビを見ることができました。



5月から6月にかけての爽やかな時期に、機会がありましたら訪れてみてください。